

## 府中市インフラマネジメント計画改定検討協議会（第3回）会議録

- 開催日時 令和6年9月13日（金） 9：30～11：00
- 開催場所 プラッツ第2会議室
- 出席委員 6名（50音順）  
根本 祐二会長、金子 雄一郎副会長、高山 清子委員、谷垣 岳人委員、  
土方 康志委員、松木 紀美子委員
- 欠席委員 0名
- 出席説明員等  
松村都市整備部長、直井維持管理等担当主幹、竹内道路課長補佐、  
江内田公園緑地課長補佐、塩澤下水道課長、堤原下水道課長補佐  
長谷川インフラマネジメント担当主査、石谷インフラマネジメント担当  
八千代エンジニアリング(株) 野田、山本、加藤、森、水野
- 傍聴者 1名
- 議事日程
  - 1 第2回協議会における確認について
  - 2 議題
    - (1) 目次について
    - (2) DXの推進に関する特設ページについて
    - (3) 各取組に関する表記方法について
    - (4) 効果額に関する表記方法について
    - (5) タイトル案及びイラスト採用方法について
  - 3 その他

## ■会議録

○事務局 おはようございます。それでは、定刻になりましたので、第3回府中市インフラマネジメント計画改定検討協議会を開会させていただきます。開会に先立ちまして、都市整備部長の松村より、ご挨拶申し上げます。

○都市整備部長 委員の皆様、おはようございます。都市整備部長の松村でございます。

本日は、お忙しい中、また厳しい暑さが続く中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本日も審議いただく案件は、1点目、目次について、2点目、DXの推進に関する特設ページについて、3点目、各取組に関する表記方法について、4点目、効果額に関する表記方法について、5点目、タイトル案及びイラスト採用方法等についての5件でございます。

よろしくご審議を賜りますようお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局 それでは、根本会長、進行をお願いいたします。

○会長 では、会議に入りたいと思いますが、会議を開催するにあたり、事務局から本日の委員の出席状況について報告をお願いいたします。

○事務局 本日の委員の皆様の出欠状況でございますが、全員ご出席いただいておりますので、本協議会は有効に成立しておりますことをご報告します。

また、本日もこれまで同様に各取組の担当課の職員が同席しておりますが、道路課長及び道路課整備担当主幹につきましては、急遽議会対応が必要となったことから、現在不在ではありますが議会対応が終了次第、同席させていただきます。以上でございます。

○会長 はい。本日の会議は有効に成立しているとの報告がありました。続きまして、本日の傍聴希望者の状況を報告してください。

○事務局 はい。本日は1名の方が傍聴を希望され、会議室の外で待機している状況でございます。

○会長 委員の皆様にお諮りいたします。傍聴希望者の入室を許可してよろしいでしょうか。

(「異議なし」との声あり)

○会長 それでは、傍聴希望者の入室を許可しますので、事務局は傍聴者をご案内してください。

(傍聴者入場)

○会長 それでは、会議時間 1 時間半程度で進行させていただきます。本日の資料について、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局 机上に配付させていただいております資料について、上から順に確認をお願いいたします。各資料右上に資料番号をふっております。

(配布資料の確認・資料 1 から 6 の簡単な説明)

○会長 事務局から、資料の確認がありました。資料の不足等はありませんでしょうか。

それでは、議事を進行します。次第 1 第 2 回協議会における確認についてです。こちらについて、事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 事前にメールでご案内させていただきましたが、これから説明させていただく資料 2 から資料 4 については、会長に相談のうえ、資料 5 に反映済みとなっていることから、説明のみとさせていただきます。

資料 2 をご覧ください。第 2 回協議会においての疑問点等を協議会終了後 1 週間以内に事務局へご連絡いただくこととなっております。その際に委員の皆様から寄せられた質問とその回答となっております。各課からの回答を事務局が一問一答形式でまとめさせていただいております。

続きまして、資料 3 をご覧ください。中期計画及び取組名称変更案になります。第 2 回協議会時に会長をはじめ委員の皆様からいただいた、ご指摘を踏まえ再検討を行いましたので、一覧とさせていただきました。主な変更点としては施策⑮の「車道」以降、取組毎に「〇〇の維持管理に関する市民満足度を把握し、市民サービスを向上させます。」と文言を統一しております。〇〇の部分には各施設名である車道や街路樹、大型構造物などの名称が入る形となっております。

続きまして、資料 3—2 をご覧ください。こちらにつきましては、資料 3 を作成するにあたり基礎資料とし、変更や修正のあった取組のみ作成させていただいております。また、資料 3 別紙をご覧ください。こちらにつきましても、資料 3 を作成する際に合わせて作成したもので、点検・更新

についての考え方をまとめたものになります。

最後に資料4をご覧ください。こちらは計画改定時に廃止及び統合した取組一覧になります。こちらについては、理由を含めて分かりやすいように記載する必要があるとご指摘いただきましたことから、資料5の各取組のページの前、29ページに反映しております。

以上でございます。

○会長 第2回協議会の全体の内容になります。資料については事前に事務局から各委員に送付があり、委員の皆様は確認しているかと思います。これまでの説明について、意見等ありますでしょうか。

(意見なし)

○会長 それでは、第2回協議会における確認は、今ご説明いただいた事務局案通りとします。

○会長 次第2 議題についてです。(1) 目次について事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 資料5を1ページめくっていただき、目次をご覧ください。

前計画からの大きな変更点としましては、第2章の3で、計画改定時に廃止及び統合した取組を示していること、第2章の4で「府中市におけるDX」としてDXの推進に関する特設ページを追加したこと、第3章の3で効果額の見せ方を市民一人当たりコストに変更したことに伴い、細かい段落分けがなくなったことの3点になります。DXの特設ページと効果額の見せ方については、この後詳しく説明させていただきます。

以上でございます。

○会長 説明がありました通り、主な変更点はDXですが、それにつきましては後程詳しく説明があるとのことでした。その他について意見のある委員はいらっしゃいますか。

(意見なし)

○会長 目次ですので、内容の方で何かあれば更新されるところだと思います。意見等がなければ、事務局案通りとします。

次に、次第2 議題(2)DXの推進に関する特設ページについてです。事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 資料5 30ページをご覧ください。DXの推進に関する特設

ページになります。左側では、D Xの概念や府中市の考え方を記載し、右側には具体的な取組例を記載しております。

右側のページにうつりまして、インフラ管理全体の項目では、S N Sを活用した情報発信を取り上げております。維持管理の項目では、道路占用に関するロゴフォームでの申請方法を取り上げております。補修更新の項目では、道路等包括管理事業で利用している不具合の通報制度や今後導入していく最新技術を取り上げております。

以上でございます。

○会長 ありがとうございます。新しい項目ですので是非ご意見いただければと思います。体裁的にはA 3のとじ込みのような形で入るのでしょうか。

○事務局 現状ではそのように想定しております。計画の公表は、冊子という形ではなくてH Pでのデータの公表を想定しております。

○会長 P D FファイルでもこのページはA 3とするのでしょうか。

○事務局 そのように想定しております。

○会長 A 3が見やすいということですかね。このページを切り離して、D Xの重要性を訴えるという考え方もありますね。

○事務局 計画書2 5、2 6ページにもD Xの記載はありますが、特設ページとして、こちらで大きく取り上げたという経緯がございます。

○会長 分かりました。内容についてはいかがでしょうか。

○委員 D Xの話ですので、不具合通報システムや、市民周知のS N Sに関して二次元バーコードやリンクを記載することで、実際に見ていただきやすいのではないかと思います。

○会長 二次元バーコードを入れる場合、どの取り組みが該当するでしょうか。不具合通報システムは、入れられますね。

○委員 市民周知のS N Sについても入れられそうですね。

○会長 そうですね。問題ないですね。

○事務局 SNSは、これまでは、道路クリーンアッププロジェクト等を市の公式のX（エックス）で周知しておりましたが、今後は、インフラマネジメントに関するSNSを作成しようと考えております。アカウント作成の時期にもよりますが、こちらも反映したいと思います。

○会長 市民の方に知っていただくことを考えると二次元バーコードを計画書に記載することは確かに良いと思いますので、出来る限り反映をお願いいたします。より広く周知するために、こういったものにするの良いかという観点で検討してください。

○事務局 不具合通報システムの二次元バーコードは、計画書に記載して問題ないと思っております。

○会長 HPでの公表のほか、例えば、自治会単位でインフラマネジメントに関する研修や説明を行う際に、紙媒体で配布したものに二次元バーコードが記載されていれば、その場で確認してみようとなりやすいですね。

○事務局 今後の計画の展開・周知に向けて、二次元バーコードやリンクを記載することは可能だと思います。

○委員 不具合通報システム等について、自治会でアンケートを取る際に、計画の二次元バーコードから実際にその場でシステムを試行体験したうえでアンケートを回答いただくと、意見が収集しやすくなるかと思います。

○事務局 そういった展開も含めて、記載をさせていただこうと思います。

○副会長 DXの取組みは、各施策・施設ページの取組内容にも反映されているという理解でよろしいですか。

○事務局 はい。お見込みのとおりです。例えば、施策「市民への周知活動」の取組内容について、「親しみやすいパンフレット等の作成及びSNS等を利用した情報発信」として、SNSを利用することを取組名称にも追加することで、分かりやすいように反映しております。また、「行政手続等のオンライン化」は、ひとつの施策として新たに整理しております。道路等包括管理事業に係る不具合通報システムは、複数の施設に関わりますので、DX特設ページに代表例として記載しております。

○副会長 不具合通報システムは、道路等包括管理事業で管理している施設以外を対象にしたものもあるのでしょうか。

○事務局 公園においても、指定管理者制度による管理の中で活用しているものがあります。その他の施設への展開は、担当課と調整しながら進めたいと考えております。

○公園緑地課長補佐 指定管理者制度で管理している公園については通報システムを導入しており、一方で、市が直営で管理している公園は、従来通り電話やメールで通報をいただいております。

○副会長 公園は、特に市民が直接使用する施設であるため、システムを導入することで不具合を効率的に把握でき、便利になると思います。

○公園緑地課長補佐 近年は、市民の方から電話ではなく写真付きのメールで通報いただくことが多く管理がしやすいですが、システム等も今後検討していきたいと思います。

○副会長 現状取り組んでることで、記載可能なものは記載いただければと思います。

○会長 その他特になければ、この議題については以上になります。

○会長 次に、次第2 議題(3)各取組に関する表記方法についてです。事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 資料5 36ページをご覧ください。こちらからは各取組の内容が記載されております。先ほどご説明させていただきましたが、資料3—2の内容の反映に加え「てにをは」についても修正しております。その他に修正した箇所としましては、施策の説明を削除し施策目標を最上部に持ってきております。理由としましては、現状と課題や施策実施方針と同じ内容が施策の説明には記載されており、内容が重複しますので会長にご相談の上削除し施策目標を最上部に移動をしております。また、極力、見開き2ページでの表現としたいのですが、構成等の関係で難しい箇所については、最後に空白のページを差し込みページの調整を行っております。

こちらにつきましては、軽微な文言修正については後日ご連絡いただき、本日は大きな視点でのご審議をお願いいたします。

以上でございます。

○会長 各取組に関する記載方法、レイアウトについての説明でしたが、大きな視点で審議ということで、意見のある委員はいらっしゃいますか。

○副会長 資料3にも関連するところですが、前回の協議会で、巡回発見数を増やすといった記載について議論になり、それを踏まえ本資料では市民アンケートによる満足度の把握に変更されていますが、例えば、橋りょうに関して、市民の満足度がアンケートで確実に確認できるのか疑問に思います。車道の舗装であれば、穴ぼこや段差があるか等を踏まえて、満足度が答えやすいと思いますが、橋りょうなど点検を実施することで客観的に状態を把握できる施設は、そのような指標で評価するほうが良いのではないのでしょうか。

橋りょうは、法定点検で健全性ⅠからⅣで評価しており、Ⅳは緊急に措置を講ずべき状態、Ⅲは早期に措置を講ずべき状態などの考え方があり、どこまで細かく記載するかは別として、構造的な観点での指標は重要だと思います。全施設満足度で評価することとしていることについて、何かお考えをお持ちでしょうか。

○道路課長補佐 例えば、橋りょうでは、鳥のフンがある、清掃が実施されている、腐食がみられる、剥落がみられる等、市民の方が歩いて感じる不具合の通報も受けており、そういった点について満足度として評価しうると考えております。委員の皆様にご意見をいただきながら、より適切な評価指標を考えていきたいと思っております。

○副会長 もちろん、そういった意見や苦情も含めて日常的な対応は必要ですが、中期計画の評価指標としては、目標値の設定が難しいと思います。アンケートはどのようなものを想定しておりますでしょうか。

○道路課長補佐 アンケートでは、5段階評価のものを想定しております。橋りょうのような構造物では、安全性が最も重要であるため、アンケートによる構造物自体の評価は難しいと思っております。

○維持管理等担当主幹 市民アンケートでは、使い勝手としての満足度は得られますが、これまでのアンケートの回答結果を踏まえると、舗装や道路構造物、道路付属物等について、構造物としてどうかといった設問は、回答・評価が難しいものであると感じております。補修工事の進捗具合等、別の観点での評価を検討していきたいと思っております。

○副会長 車道については、「望ましい管理水準を維持する」と記載がありますが、維持できているかについてはどのような評価が望ましいでしょうか。橋りょうは、法定点検で部材毎に健全性が評価されますので、それが最も有効だと思います。また、車道の舗装は、数年おきに路面性状調査

でMC I 値や、ひび割れ率、わだち掘れ量、I R I を調査しておりますので、そのような数値が有効だと思います。

○会長 効果の評価指標の詳細は、いつまでに決めればよいのでしょうか。

○事務局 計画に効果の算出方法を記載する段階で、内部資料としては、全て詳細を検討・整理しております。今後、お気付きの点がありましたら、個別でご指摘いただき、担当課で回答・議論させていただければと思っています。

○会長 橋りょうだけではなく、全体的な考え方として、ハード的な管理水準と、ソフト的な満足度・利便性があり、それは施設によって詳細は異なると思います。それを、一律市民アンケートによる満足度で評価しようとする、全施設しっかり評価できるのかということですよね。特に、橋りょうの場合は定期点検を必ず行っており、管理橋りょうが健全性ⅠからⅣのどのレベルであるかや、健全性Ⅲ・Ⅳの橋りょうをどのように措置したかは、事実として整理できますね。

○副会長 車道の舗装についても、路面性状調査の結果を基に同様の整理が可能ですね。

○会長 評価の算出方法に関しては、要求水準には、ソフト・ハード面色々な指標があり、施設毎に、どの指標をどう評価するかといった検討をする必要があると思います。この場で結論を出すことは難しいと思うので、各担当課で検討をお願いいたします。

その他については、いかがでしょうか。細かい内容も含めてご意見いただければと思います。

○委員 市民アンケートで満足度を測る場合、適切に項目が設定できるのでしょうか。既存のアンケートのような、「インフラに満足していますか。」のような抽象的なものを想定しているのでしょうか。その場合は、構造物の評価としては、あまり意味がないと思います。本来は、MC I 値等の客観的な数値を重視すべきだと思います。

また、車道の舗装のMC I 値は、現行計画の管理目標値 6.7 に対して、実際は大分下回った数値となっていますが、原因はどこにあるのでしょうか。予想自体が少し不正確であったのか、工事の進捗具合等が良くなかったのか、どうでしょうか。もし、予想方法が不正確であったのであれば、予想方法を見直さなければならないと思います。

○事務局 現行計画改定前後で、路面性状調査の方法が変更したことも影響していると考えております。以前は、車両が侵入できない区間は目視調査としておりましたが、最新の調査では、概ねの路線で車両調査ができており、評価の具合に差異があったと考えております。このような調査結果の傾向について、受託業者と確認しております。

○委員 特に車道の舗装は、2018年度の計画はMC I 値6.7を維持することを目標としていましたが、今回はMC I 値5.8とは記載はありますが目標値がはっきりしていない印象があります。道路施設等、調査や点検により客観的な評価値を取得している施設については、客観的な数値で効果を図る方がやりやすいと思いますが、いかがでしょうか。

○維持管理等担当主幹 道路施設は、実際は調査や点検結果に基づいて計画・修繕を実施しています。例えば、車道の舗装の計画では、MC I 値3.0以下を優先的に対策するものとしており、そういった計画等の考え方も踏まえて、客観的な数値で効果を評価するようなものを検討したいと思います。

○会長 車道の舗装の場合は、MC I 値が高ければ高いほど良いという思想もありますが、最低限の水準を維持することを目標として対策費用を抑えることで、他施設等にその分の予算を充当するといった考え方もあるかと思えます。技術的には、より高い数値目標を設定しがちですが、一体それが本当に市民の満足に繋がっているのかは議論の余地があると思います。多少管理水準を抑えても、安全性が確保できているのであれば良いという思想もありますので、そういった思想が適しやすい車道の舗装と、一方で、法定点検により5年に1回定期点検を実施する必要がある橋りょうとでは、同じ次元での記載が難しいことは理解ができます。ただ、計画からそのような点が読み取りにくいとも思いますので、改めて検討をお願いいたします。施設毎に考え方は異なっても良いと思います。

○会長 市民アンケートは、橋りょう等の分かりやすい施設の回答はできると思いますが、例えば、歩道・植樹ます等こういった施設か市民が分かりにくいものもあると思います。施設を細分化すればするほど、回答は難しくなるので、大まかな施設区分とするほうが適していると思います。そういった観点でも、改めて次回までに検討をお願いいたします。また、例えば、標識は、インフラマネジメントのアンケートであっても、新規設置希望の回答等も出てくると思います。それはそれで市民の声としてありがたい話ではありますが、インフラマネジメントという意味での目指している回答ではないと思います。

本日の議論を踏まえて、各担当課で改めて検討し、必要に応じて修正・変更をお願いいたします。

○副会長 各施策・施設の長期計画について、「継続します。」と記載があるものは、もう少し具体的に何を継続するか記載すると良いと思います。

○事務局 そうですね。記載方法は変更します。現状は、中期計画の取組を継続することを想定しています。なお、実際は今後の計画改定のタイミングで随時取組内容に変更があるものと想定はしております。

○会長 それでは、続きまして、次第2 議題（4）効果額に関する表記方法についてです。

事務局から説明をお願いいたします。

○事務局 資料5 110ページをご覧ください。前回の協議会において市民一人当たりの金額での表現が分かりやすいと委員の皆様からご指摘いただきまして事務局で精査し会長とも調整を行わせていただきました。現在HPでは最新の人口が掲載されておりますが、基準となる人口は4月時点の方が一般的であると判断したため、令和6年4月1日時点とし、市民1人当たりの金額を算出しております。また、今回の改定では明確に金額として表現できる取組のみを効果額としております。

続きまして、111ページをご覧ください。こちらのページでは、予防保全型管理の推進における効果を記載しております。今回の改定においては明確に金額として表現できる取組のみを効果額としているものの、舗装や橋りょうなどの長寿命化計画などは、理論上は削減効果が多くあるはずで、もう少し要素として取り入れてもいいのではないかとという会長からのご指摘を踏まえまして、車道の予防保全型管理の効果額も示しておくため、記載をさせていただきました。車道については、事後保全型管理よりも予防保全型管理の方が経費も抑えられ、MC I 値も良好な状態を保てることから、インフラマネジメント白書作成時において将来予測の時点で予防保全型管理を取り入れて金額を算出しており、30年間で9.9億円、市民一人当たりにすると年間あたり3,809円の削減効果を見込んでいます。

続きまして、112ページをご覧ください。確実に効果を見込める取組の他に、道路等包括管理事業については定量的な効果が示せないまでも、定性的な効果は示す必要があるのではないかと会長よりご指摘をいただきましたので、「予防保全型の管理を推進することで、金額的には表すことが出来ないまでも、効果が上がっている」という旨の表現とさせていただきました。

最後に 113 ページ以降には効果を試算していない取組を一覧で示させていただきます。

○会長 効果額に関する表記方法についてでしたが、ご意見のある委員はいらっしゃいますか。

○委員 110 ページの『本計画』の施策実施による市民一人当たりの効果額で、白書の 30.61 億円から、計画実施の予測が 28.11 億円に削減されるため、効果が 2.5 億円となっていますが、これはどのように試算されていますでしょうか。計画の中からは、試算内容の詳細は読みとれないと思いますが、試算内容を記載せずに、効果額 2.5 億円を示して良いものでしょうか。2018 年度の計画は、各取組の効果額や試算方法を記載してありましたが、今回は各取組の内訳は記載せずに全体の費用のみ記載することになっている理由はなぜでしょうか。前回の算定方法と同じか異なるか分かりませんが、計画を比較して読むと、疑問に感じる方もいると思います。また、今後実績の評価をする際に、内部の試算経緯は残しておく必要があると思います。

○事務局 前回までの協議会において、市民にとってぱっと見て分かりやすい計画とするためには、細かい試算結果や計算式を沢山記載するのではなく、市民 1 人当たりのコスト負担がどの程度削減されるか等を簡潔に示した方が良さだろうというご意見がございましたので、まずはそのようなまとめ方としている経緯がございます。

2018 年度の計画では、各取組の効果額は記載しておりましたが、細かい試算方法は記載しておらず、インフラ管理全体や維持管理、補修更新の各取組の効果額の記載に、多くのページ数を使っておりました。こちらについて、市民にとっては分かりづらいのではないかとご意見がありましたので、まとめて簡潔に示しております。

また、実績の評価については、計画の効果の試算根拠は内部で整理しておりますのと、今後評価をする際は、庁議報告等において各担当課で簡潔な計算式を用いて確実に効果とできる費用について試算することを想定しております。

○会長 効果額のうち、代表的なものを記載することはできないでしょうか。計算式はともかく、こういった効果を見込んでいるかは示せるのではないかと思います。

○事務局 代表的な取組の効果額を示すことはできると思います。効果額

2. 5億円を試算するにあたり、条件を整理して試算しておりますので、記載の程度は検討が必要ですが、もう少し詳細に、「この取組はこの程度予測しています。」というような表記はできると思います。

○会長 どのような効果を予測しているかは説明がある方が良いと思うので、効果額2. 5億円の主な内訳を、例えば上位5つ位、注釈でも記載すると思います。111ページの車道の効果も2. 5億円に含まれるのでしょうか。

○事務局 111ページの車道の効果額は、110ページの本計画の効果額には入れておらず、白書の計算予測結果の時点で既に見込んでおります。本来であれば、白書の予測は事後保全型による管理にかかる費用、本計画実施の予測は予防保全型による管理にかかる費用として試算していくべきものですが、車道については、白書の作成時点で既に事後保全型の管理を計画していなかったため、予防保全型の管理にかかる費用で試算しておりました。そのため、車道については、この2. 5億円に含まれませんといった説明を111ページに記載しております。少し複雑ではありますが、これまでの検討・試算経緯を記載しているところです。

○会長 内訳の記載方法については、煩雑にならないような工夫をお願いいたします。

○事務局 計画の実施効果2. 5億円については、全ての取組ではなく、主な取組のみを記載する方がよろしいでしょうか。

○会長 全ての取組を記載できるのであればそれでいいと思いますが、スペース次第かとも思います。計算式までの詳細な記載は、ページ数を考慮すると難しいでしょうか。

○事務局 はい。文字数等を考慮すると、各取組の効果額を記載する方法が良いかと思います。前回までの協議会で、なるべく市民が分かりやすいものが良いというご意見もいただいておりますので、そういった点も踏まえ、記載方法を工夫したいと思います。

○会長 効果額2. 5億円の半分程度が記載できていればよいと思います。まずは、その方向で記載してみて、やはり全て記載したほうが良い等がありましたら、注釈等も活用しつつ、もう少し詳細まで記載するようにしましょう。効果額を記載しても、疑問点が多いとあまり意味がない気もします。もう少し説明を追加すると良いと思います。

○委員 街路樹や公園緑地等(植栽・花壇)の効果額の算出方法において、伐採した本数分の剪定費用を効果額とする旨が記載されています。伐採をする場合、その後の剪定費用がどの程度不要になり、何本伐採すると効果額がいくらになるというような仮定を置いて試算しているということでしょうか。そのような試算における仮定条件の妥当性も、きちんと検討したうえで試算する必要があると思います。補修更新の項目のうち、多くの項目は具体的な効果額に算出方法が記載されていない一方で、樹木に関する項目については効果額が見込まれる試算結果となっています。取組毎に効果額の特性は異なると思いますが、効果額を試算している項目とそうではない項目の違いはどのようなもののでしょうか。

○事務局 街路樹も含めて、各取組の効果額は、これまでの実績を踏まえた仮定条件の設定・試算を行っております。街路樹であれば、これまでの間引き実績の本数平均から、今後も継続すると平均的にはどの程度伐採を実施し、計画期間内で何回の剪定を行わずにすむことで、剪定費用がどの程度削減されるかといった試算を行っております。他の取組も同様に、効果額の試算については、これまでの実績から仮定条件を設定・試算しており、そういった試算経緯・根拠がはっきりと説明可能な取組を対象に今回は効果額を試算しているところです。

例えば、2018年度の計画は、長寿命化計画の策定による効果等も見込んでおりましたが、そういったものは明確な説明が難しいと感じており、今回は明確に説明ができるような金額だけを対象とした経緯があります。

○委員 街路樹のところは、他の施設より明確に試算出来たということですね。

○事務局 街路樹については、剪定費用が実績等より整理でき、これまでの伐採実績も整理できているため、それらの実績値からある程度根拠のある数値が試算可能なものと考えております。伐採したことによって、その木に対して剪定するはずだった将来の金額は確実に必要がなくなるため、その金額を効果額として試算しています。

○会長 伐採計画があるわけですね。

○事務局 計画という形であるというよりは、伐採してきた実績があるということになります。

○会長 橋りょう等でも同様の考え方をしますが、仮に橋りょうを廃止した場合、本来その橋が存続したときにかかると想定される維持管理費用はなくなると考えるようなことですね。

○事務局 そのような考え方で試算しています。

○委員 伐採した箇所への新たな植え替えは考えないのでしょうか。現在の記載案からは、伐採だけを進めるように読めてしまうのではないのでしょうか。

○事務局 まずは、伐採の事業に着目して試算しており、新たな植樹等は現時点では考慮・計画しておりません。現状計画していない植樹等まで全て仮定して考慮すると、現実的には効果額の試算は難しいのではないかと考えております。そのため、現時点で計画・想定している事業について、効果額を試算するものとして、整理しております。

○委員 試算における考え方は理解できました。この部分だけを考えるとコスト縮減がみられるが、現時点で計画・想定している事業を越えて広範囲で考えると実際はコストがかかってしまうとも見れるかとも思いましたが、全て考えると際限ないため、計画における表現ではそういった考え方もあると理解しました。

○会長 効果の記載方法は、工夫をお願いいたします。事務局の先程の街路樹の説明は、例えば、公共施設の建替えや橋りょうの架替えは、その後の費用を見込みますので、もし植え替えるのであれば、街路樹だけ見込まないのもどうかとは思います。

○事務局 植樹の計画がはっきりない中では、伐採した街路樹に対してはその後管理費用が生じないという考え方としております。

○会長 更新するのであれば、新しい街路樹の費用はかかりますので、他分野では、その費用も上乗せして試算すると思えます。

○都市整備部長 現時点では見込んでいませんが、今後、間引きを継続した場合、何か植え替えという話が出てくるとも思います。例えば、大径木から一部を植え替える等、新たな施設自体の費用がかからないような対応方法はあると思えます。現時点では、大径化した街路樹を対象に間引きを実施しております。今後、将来的な植樹等も計画していく必要性が出てくるとは思いますが、現時点では見込んでいない状況になります。

○委員 大径化した街路樹の伐採実績があることから、それに伴う削減費用は効果額として試算できるが、その後の植樹は計画や実績が現段階では

明確ではないことから、効果額の試算対象としていないと理解をしました。伐採による将来の削減費用だけを取り上げて、新たな植樹による将来の増加費用は試算に含めないとする、費用が削減できる部分のみを考慮しているというようにも見えてしまうので、植樹についての計画が出来るのであればそれも試算対象に含める方がよいことになるかと思います。ただ、試算ができない範囲があるのであれば、伐採に関連する全取組を効果額の試算対象としない考え方もあるかと思います。これが全体の効果額 2.5 億円のうちのどの程度を占めているかは分かりませんが。

○都市整備部長 将来的な植樹等を含めた費用についても、検討したいと思います。

○委員 110 ページの白書での予測経費 30.61 億円は、計画のどのページに記載があるものでしょうか。

○事務局 下水道を除いた、13 ページの歳出 40.28 億円から 15 ページの歳入 9.67 億円を引いたものです。

○委員 15 ページの表で「経費」となっているところは、「収入」ではないかと思います。

○委員 110 ページまでに 30.61 億円という数値の記載がないため、それまでに出てきたどの数値を引用したのか、記載しておくと思いいます。

○会長 一つの用語は一つの意味しか持たないように、用語の統一をお願いいたします。また、110 ページのような重要な数値は、どのように算出したか追えるような記載とすると良いと思います。注釈等での記載でよいですが、記載方法の工夫をお願いいたします。

○副会長 110 ページの内容は、2018 年度の計画の 95 ページと概ね対応しているかと思いますが、2018 年度の実績 17.2 億円に対して、今回は 27.66 億円と費用が大きく異なるのは、何が原因でしょうか。計算の対象が変わっているのか、インフラの劣化が進んだことによる対策費の増加か、どのようなことが要因として考えられますか。

○事務局 2018 年度時点で実績のなかった長寿命化計画策定事業の委託費等、実績の費用が増加しております。

○副会長 今回の白書の予測は、2018年度時点では考慮していなかった長寿命化計画の試算結果が入っているのでしょうか。もしくは、そうではなく2018年度の計画と同様の考え方で事後保全型の管理の費用を見込んでいるのでしょうか。既に計画を実施しているものは、大きな効果が出にくいことも仕方ないと思います。

○事務局 今回の白書の予測は、2018年度以降に策定された計画も反映したものになっています。そのため、定期的な調査・点検費用を新たに見込んでいる等、2018年度の計画で想定していなかった費用も含まれています。そのため、2018年度の予測と直接比較するのは難しいものと考えております。

○副会長 2018年度の計画と今回の計画を直接比較される方がいるかは分かりませんが、単純に見ると費用が増加していますので、見せ方等は留意すべきかと思います。効果額2.5億円の主な取組は何でしょうか。

○事務局 効果額の費用が大きい取組・施設は、街路樹の伐採や法定外公共物の売却になります。

○会長 予防保全型の予測は理論値が入ると思いますが、実際に計画通り予防保全型で管理したら効果はどの程度か等、実績を整理してもよいと思います。

○事務局 今回は算出しておりません。

○会長 継続的に計画策定等を実施してきているので、そろそろ蓄積された実績値と、計画の理論値を比較して評価しても良いと思います。計画値は、基本的に保守的な数値ですので、実際はもう少し効果が大きいこともあるかと思います。評価にあたっては、色々と課題もあると思いますが、ぜひご検討いただきたいです。

それでは最後に、次第2 議題（5）タイトル案及びイラスト採用方法等についてです。簡潔にご説明ください。

○事務局 資料6 イラスト案一覧をご覧ください。各取組ページの余白スペースに、表に記載のイラスト案を市民から募集し掲載できればと考えております。内容によっては、写真でしか表現できないものもありますが、可能な限りイラストを採用したいと考えております。

募集方法につきましては、11月に開催予定の市民協働まつりにおいて、道路課でブースを出展しますので、そこでワークショップを開催したいと

考えております。

また、タイトルにつきましても、【インフラマネジメント計画】をサブタイトルとし、「インフラってなあに」といった柔らかい表現でのタイトルとできれば良いかと考えており、事前にメールでもご依頼させていただきましたが、委員の皆様からタイトル案を伺えればと考えております。以上でございます。

○会長 どのようなものを募集するのでしょうか。

○事務局 市民に、インフラに関するイラストを描いてもらい、それを採用できればと思っています。

○会長 市内のイラストレーターに描いてもらうということでしょうか。

○事務局 市民ワークショップでインフラの取り組み紹介があるため、その場で市民の方にイラストを描いていただき、それを計画に載せるといった流れにしたいと考えております。その際、ご本人に掲載可否の確認も取れると思います。そういったものを計画内の空白のページ等に入れることで、より親しみやすい計画にしたいと考えております。

○会長 色々な方のイラストを載せるということですね。

○委員 イラストを描いていただくということですが、適切なものがなかった場合はどうされる予定でしょうか。難しい部分があると思いますが、イラストを描いていただくための材料を用意する等の工夫も必要だと思いますが、少し心配です。

○事務局 ワークショップでは、インフラマネジメントに関する作業風景の写真等を用意しておき、そういった写真を参考にしつつ描いていただくと考えております。

また、市内の学校と連携して、イラストを募集したいと考えております。そのような方法で、ある程度の数が揃えれば良いかと考えております。なるべく多くのイラストを採用し計画に散りばめることで、市民の方にこれだけご協力いただいたと紹介出来るようなものになればと思っています。

○会長 市民の方に、計画に関わっていただくための手段ということですね。

○委員 イラストのところで、例えばインフラマネジメントシステムの活

用や公園緑地等の官民連携推進、インフラ管理ボランティア制度について、前提としてのどのような仕組みかが分かるような図があると良いかと思いました。余白の問題もあるので参考までとしてください。

○事務局 各取組の概要説明となるような図表の挿入も検討しましたが、現行計画でも各施策・施設の空白箇所に写真を入れておりましたので、新たな計画においても、まずは、写真やイラストを挿入したいと考えております。

○委員 インフラ管理ボランティア制度等の申込みに関するリンクも記載すると良いと思います。

○会長 タイトル案については何かご意見ありますか。市民の方からアイディアを募ることも良いかもしれませんが、委員の皆様でご意見があればメール等でご連絡をお願いいたします。

○委員 どこに記載するタイトルでしょうか。

○会長 先ほどの事務局の説明ですと、現行計画のインフラマネジメント計画はサブタイトルにして、メインのタイトル自体を何か柔らかいものとするかと思います。もう少し、市民の方が手に取りやすいタイトルにして、インフラマネジメントの事態の深刻さと、それに対する努力が必要であるということを認識していただくというメッセージが出せるものもいいかなと思います。

○事務局 新たに考えていただくタイトルの下に、小さく「府中市インフラマネジメント計画」と記載するイメージですので、タイトルによらず、サブタイトルでインフラマネジメント計画であることは認識できるものになると思っています。現状のタイトルでは、やはり市民の方に手に取っていただきにくい課題があると感じておりますので、例えば子ども等に手に取っていただけるような、興味を持っていただけるようなものとしたと考えております。

○会長 他の地方自治体でも、あまり特徴的なタイトルとされている計画の事例はないですが、メッセージが伝わるような案が出てくれば良いことだと思います。インフラ管理者等の当事者ではない方が、良いアイディアが出てきますかね。

○会長 以上で本日の協議事項は終了ですが、ご意見がある方は、1週間

以内に事務局へお願いいたします。

最後に、次第3 その他について確認しましょう。

### 3 その他

○会長 第4回協議会の開催日時は、事務局案が11月19日（火）午後3時からですが、委員の皆様いかがでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○会長 それでは、これで本日の次第につきましては、全て終了いたしました。皆様、ご多用の中ご協力ありがとうございました。

事務局は、引き続き各種検討の方よろしくお願いいたします。

以上で、第3回府中市インフラマネジメント計画改定検討協議会を終了します。